

# 丹後フィールド記録

佐々木 伸 一

## はじめに

本稿は、2016年から開始した学内共同研究の競争的資金による丹後半島地域でのフィールドワークの実施記録である。

共同研究のかたちで、2016年8月8、9、10、11、12日、9月5、6日、12月25、26、27日、2017年3月26、27、28日、8月8、9、10、11日、9月7、8日、2018年3月28、29日、8月5、6、7日、9月7、8、9日、計9回延べ27日間の調査を実施してきた。

この調査は、アメリカでの Business Anthropology 的実践の具体的なモデルを日本において構築しようとする試みの一環として行っており、丹後の俯瞰的理解を目指して現在も継続中である。

さて、日本の文化人類学は、ビジネス分野へと向かう動きはこれまでほぼなかった。それは、民族が混在する社会構造や文化的価値、産業構造、企業組織文化など複雑に関連しあった状況が異なり過ぎ、アメリカでの Business Anthropology の方法をそのまま真似てもできなかったからと考えられる。また日本において、大企業は事業部制を敷いており、それぞれの部署を横断的に見通すことは困難を極める。それゆえに参画可能性の場として見出したのが、小さなステークホルダー（利害関係者）が寄り集まる「地域」であった。これを一つの「経営的集合体」としてとらえ、俯瞰的視点による調査を通じ、その「地域経営」に人類学がどのように関与できるかを見定めることを目的としている。

丹後地域（宮津市・京丹後市・伊根町・与謝野町）でのフィールドワークを

行うことにしたのは、大学と同じ京都府であることと、佐々木が伊根町新井ほかでフィールドワークを以前行った経験があったからである。

なお、継続調査中であり、また情報量が膨大になるため、ここでは行ってきた事績とトピックを主とする記録にとどめたい。共同調査者は、本学の村山弘太郎、就実大学の八巻恵子、多摩大学の田中孝枝、奈良大学の芹澤知広、静岡文化芸術大学の高島知佐子、福井大学の中村友哉である。

## 記 録

### 2016年

#### 8月8日（月） 佐々木、村山、八巻、田中

京都駅はしだて3号10時25分。12時19分宮津着。駅の観光案内所は休み。レンタカーを借り伊根方面へ向かう。途中、二反田で昼食。夏限定定食。トリ貝について聞く。伊根町へ、伊根町役場で企画観光課主事の方にインタビュー。観光振興策、水産業、農業関連について。インバウンドは台湾人が多いという。

筒川地区薦池集落で薦池大納言という大粒の小豆、ここだけでしか栽培できない。これを原料として、エスポワール（5ヶ入）1250円、神戸レーブドゥシェフ佐野靖夫氏の監修による伊根町初のスイーツ。浦嶋神社のそばのイタリアンパール・ピエーノで販売。

伊根町商工会でインタビュー。商工会は地域振興にもかかわっていたが、国の方針として昨年から、経営支援が中心となり、商工業者の相談にのることが業務となっている。経営支援として政府系金融機関への推薦を行っている。主に舟屋民宿と漁業関連について話を聞く。町内のイベントについては観光協会へ移管しているという。

舟屋を見に行く。舟屋の里公園へ。高いところからの絶景であった。橋立へ戻る途中、お菓子の館はしだてへ。峰山のシティホテル峰山泊。鼓鍋というお店で晩御飯。

#### 8月9日（火）

大宮のつぼりゅうという和装店でインタビュー。創業昭和26年、シルキーた

いむのブランドでオリジナル商品を販売。端切れで疋田（鹿の子模様）ポーチなどの小物や財布、ストール、着物、結婚式場での貸衣装の羽織を手掛けている。現在の商売について話を聞く。

宮津市役所企画部企画政策課でインタビュー。産業連関表について、またインバウンド関係について聞く。インバウンドについては実数他を把握できていない。外国語対応にも問題あり。Wi-Fi パケットセンサーを用いた観光流動調査、平成27年12月28日より開始。3月末日まで計測の予定である。観光交流課観光まちづくり係が担当。大学との包括協定はしているが、ただあまり機能してはいない。

魚市場の店で海鮮丼の昼食。峰山へ移動。京都府丹後広域振興局企画総務部企画振興室でインタビュー。コーディネーションと財政計画作りが主な仕事。分野すべてが対象で北部7市町を包括。移住・定住策も全体で。企業誘致については商工会がそれぞれ行っている。観光協会は全体で繋がっており、城崎も一緒にやっている。「京丹後百寿人生のレシピ」という冊子をもらう。

佐々木ゼミ学生の祖父から話を聞く。夕日ヶ浦浜詰在住、83歳。元は魚屋であったが、戦後の統制経済下で、機屋を目指す。なかなか覚えるのは難しかったが、がむしゃらに進む性分なので、なんとかあった。機織り機を買い入れ専業とする。40代でここの土地を買い、家と工場を立てた。息子が結婚した際には、家の裏に新居を造った。ご馳走はばら寿司、あんころ餅、餅だったという。

夕日ヶ浦から浜沿いに、浅茂川漁港、鳴子神社、八丁浜、浅茂川海水浴場。網野の町を抜けて、菓子屋「あん」へ。ガチャマンという饅頭が人気1位という。隣の物産屋でいろいろ見る。メロンに櫛引の名前が付けられていないことについて、生産者から直接仕入れているので名前は使えない。ただその分値段は安いという。向かいの酒屋で利き酒、久美浜へ、すずらん荘泊。

## 8月10日（水）

京丹後市久美浜市民局でインタビュー。久美浜は東京から遠いのでインバウンドは難しい。外国語対応についても。久美浜町では、それぞれの地区で自治振興会・協議会の活動が盛んに行われている。山陰ジオパークとしての観光を

考えている。久美浜湾で遊覧船。無人島で宿泊。行政も入っており安定した経営をしている。秋のウルトラマラソン、久美浜まちあるきは『特定非営利活動法人わくわくする久美浜をつくる会』が開催。登録文化財である「豪商稲葉本家」（京丹後市所有）の指定管理団体であり、ボランティア活動によって運営。この会が久美浜一区自治振興会と重なり、久美浜季節祭りとしてひな祭り、鯉のぼり、七夕の時に町中で飾り付けをしている。また久美浜百珍の選定・百珍の特産品フェアを開催している。

城崎から KTR・JR で久美浜へ、海水浴への誘いを今年から始めた。丹後方面というより、出石⇒久美浜⇒城崎⇒武田城という回遊ルートを想定し、今後につなげればと考えている。少しずつファンを増やしていけばいいのではと思う。

空き家は多いがなかなか貸してくれない。位牌が置いてある、帰る時がある、故郷のつながりが絶たれる感じがする、といった理由でその活用は難しい。

観光として海水浴・温泉・カニ、農業はコメ、特A米、京丹後米として出荷しているが、ブランディングがなされていないため単価が安い。なお、地元出身の学生、戻っても職がないので、豊岡や福知山に通勤している。

道の駅でんきてんき丹後で昼ご飯。自家用車個人客ばかりで観光バスは1台だけ。魚フライ定食、鬼へしこというものがあり、おにぎりへしこであった。経ヶ岬は人が少ない。昔は観光地でレストランもあったのだが。ツーリングのバイク数台程度。

丹後郷土資料館へ。こちらの研究趣旨を説明。協力を要請。三上家文書についての承諾を得た。芹澤さんとここで落ち合う。宮津のミップルでお茶、高島さんも合流。佐々木、芹澤、高島の3名で岩滝の橋立ベイホテル泊。宿の紹介で居酒屋「きらく」で晩御飯。

8月11日（木）

祝日山の日で行政はお休み。見学が主となる。三上家見学。指定管理者元結屋27が平成27年度より運営。観光協会から引き継ぐ。（現在施設の案内を行っている地域住民が主体となって、重要文化財旧三上家住宅の適正な維持管理、

誘客促進を行う組織として「元結屋27」を設立)。

天橋立で傘松公園にリフトで昇り見学。松井物産というお土産屋へ。全体として昭和風の観光地のままというのが印象。下に降りて駐車場係りの人と話していると、関係者のような人が、その人は何と松井物産の社長であった。行政がなかなか動かない話やインバウンドの送客などについて立ち話をする。

伊根へ、舟屋の里公園から見る。公園の食堂油屋は行列。下へ降りて海のそばで、タスマニアの家族連れと話す。息子が京都在住者で、家族を案内しているとのこと。伊根について他の人たちには教えたくない良い場所であるという。遅い昼ご飯「かもめ」で、伊根で食事場所が不足していることを実感。その後、向井酒造へ、利き酒。

新井へ行く。以前泊まっていた民宿を探す。家の前の畑にいた奥さんに会う。覚えていないといわれる。袖師の千枚田を見る。浦島神社に寄る。公園のピアノは閉まっていた。経ヶ岬を経て、てんきてんき丹後でお土産を買う。シティホテル峰山泊。近くの居酒屋たつや、おいしかった！

## 8月12日(金)

峰山の京丹後市役所へ。企画総務部企画政策課でインタビュー。ここでは政策策定が主な仕事。京丹後市全体で動くことは少ない。ビジョンを作り統括をしている。6つの支所はそれぞれで動く(峰山町、大宮町、網野町、丹後町、弥栄町、久美浜町)。それぞれの市民局に地域町づくり推進員各2名を配置。観光イベントはそれぞれの支所でやる。市民部がその全体を見ていき、観光部、農林部、市民協働課が調整。DMOは大宮庁舎で。(久美浜は豊岡の生活圏という考え方)。山陰新幹線、北陸新幹線京都・舞鶴ルートを切望。

前市長は天理大から京大、中央官庁を経て京丹後市初代市長、よそ者だから地域の良いものが分かる。

移住支援をしている。空き家の改修費用として180万。移住支援員が全般をコーディネート。彼女自身、旭川出身。

インバウンドについては、多文化共生を目指している。米軍レーダー基地の関係から、昨年、ケネディ大使が来訪。鳴き砂と同じシンキングビーチが、ポ

ストンのそばのマンチェスターバイザシティにあることが判明。先月、島津小とマンチェスターメモリアル小学校とが交流。プレゼント交換をした。姉妹都市協定を結ぶ方向。

米作でA5米の最西端である。米作発祥の地という。月の輪田、峰山町二箇区。

丹後織物工業組合へ。お盆休み。与謝野町へ。役場に車を止めて中華料理屋で昼食。与謝野町商工観光課観光振興係でインタビュー。

観光ではない地域振興。農業と機屋での地域づくり。加悦区のちりめん街道は住民の手で行われ、役場が協力している。ちりめん街道守り育てる会、女子会、NPOのちりめん街道未来塾が設立されている。

農業ではホップ栽培と地ビールの生産を試験的に去年から行っている。今年は20アールへ拡大。圃場は道の駅シルクのまちかやのそば、有限会社アップルファーム、加悦SL広場がある。なお、阿蘇湾公園地帯を対象にベイエリア活性化計画がある。

ちりめん街道へ行く。尾藤家見学。入ってちりめんの話が聞きたいというと、管理人の女性の一人で花を活けていた人から、それならうちのお父さんから聞いてはどうかといわれ、お願いするとすぐにやってきて、見学の途中でこの人から話を聞くことになる。丹後ちりめん製造卸ウエダ商店、ちりめん街道未来塾理事長、70歳代、丹後織物工業組合の総代の一人であった。

独立して20年になる。高卒でこの世界に入り、54年間この仕事をやっている。ちりめんは1948年当時、995万反生産され、組合で生産調整が行われたほどであるが、2016年での予想見積りは32万反で、実際には30万反を切るのではないだろうか。各企業が個人的に取り組みをする他はない。需要は減っており、労働人口の減少、高齢化、事業継承、生産性、機械の高度化、など多くの問題を抱えている。

素材の産地から、生産・染色・販売まで手掛けるべきであったが、呉服の流通をストレートにすることができなかった。ただ、若手の後継者が同業のグループを作り、新しいものを開発し、販路としてデパートを開拓している。

外国への販路は難しい。注文があってもキャパの問題から無理である。小幅なものでも10万反というもので、大規模な設備が必要だが、その投資は怖い。実際、小ロットで多品種なのが与謝野（加悦？）で、京都の室町に卸している。着丈、長襦袢、男装のレンタルとして紋付や袴などで、スキマ、ニッチな事業なのである。先輩の方から他の業界へ行った方がいいと言われてきた。

加悦では紋織物が主流で、明治後半にジャガード織り機を導入。西山工場（杉本）は当時最大の工場であった。江戸時代にちりめんが丹後に入ってくる。峰山藩の絹屋佐平治と宮津藩の山本屋佐兵衛、手米屋小右衛門の3名が西陣で技術を習って持ち込んだことに始まるが、宮津藩はこれを独占しようとし弾圧され、別な絹織物を作ることになり、加悦谷では米作りと絹織物をやるようになっていった。宮津藩はこの織物も吸い上げようとしたが、技術を隠して乗り切った。

昭和2年に丹後大震災に襲われたが、加悦谷の被害は比較的少なく、また機屋が自分たちの技術を蔵に隠しておく習慣があったため、人的被害、技術、見本やストックは燃えずに残った。他方、峰山では震災後の復興援助により、近代的織機、ジャガードを導入し、大量の単一製品を大きな工場で作ることができるようになった。

しかし昭和40年代から60年代に不況が来るたび、峰山では倒産が起きたが1軒だけでは済まなかった。皆で仲良く保証人になっていたため、2、3軒が同時に潰れていった。

加悦では、小規模多品種であり、売れなくなれば別なものへ替えられるので、生き残っているのが多い。

西山工場は丹後一の機屋であったが、従業員に教育をさせて嫁を取らせて独立させていき、一時的に左前になったが、規模を縮小することで乗り切った。その後、京都の先染めをするようになったが、今は夫婦二人で経営、子供は医者となり、いま64、5歳なので、この代でおしまいになるだろう。

絹織物の精練は京都で行っていた。しかし目方を誤魔化されるということから、加悦・網野・大宮・岩滝で行うようになり、大宮は本部工場、岩滝工場が

今もある。

小学校4年に、蚕の飼育から布作りまでの体験教育を、NPOでやっている。若い人たちのグループ化は欠かせない。数グループあるがこれについては本部で聞いて欲しい。また新しい糸の開発が重要という。

宮津市役所の教育委員会へ行く。趣旨を説明、協力依頼。ミップルでメロンを買い京都へ。

### 9月5日（月） 佐々木、芹澤

台風が心配だったが、はしだて3号10時25分で行く。宮津駅前「平の屋」で昼ごはん。海鮮丼と岩ガキ。この場所はガラシャが子供を産んだ地、細川の屋敷、茶室もあり、来年ガラシャ・オペラを催すという。カニ解禁は11月8日、2週間後あたりが安値という、昼に来て夕方の高速バスで帰る、こういうツアーもあり。

教育委員会へ。宮津市史の購入について、また地域教育の有り方を少し議論する。企画部企画政策課へ行く。なまこ・オリーブ・竹カスケードの振興の意義を聞く。地域おこし協力隊員を募集。この隊員は、主な役目としてそれぞれに関わるが他にも仕事をしてもらっている。

なまこについては、後藤商店の息子の嫁が10年前に義父のなまこ製造を継ぎたいと言いだめたもので、住民のやる気を応援しようということと、市や漁協の方でも地産地消を図る計画があったためである。

オリーブは由良でやっている。ミカン農家が高齢化し作業が大変になったため、それに代わるものとして井上市長が発案した。付加価値が付けられるからだそうである。京丹後市の農家でオリーブを栽培している農家があり、そこへ聞きに行くとミカン山の斜面はオリーブにも適しているということで始めた。

竹カスケードについては全国的なそれと同じで、放棄竹林の管理の適正化というトップダウンのものである。初めはバイオマスを考えたうまくいかないの、マテリアルとしての活用、表皮成分の抗菌性からの薬剤の製品化（民間）、竹炭加工、また住民による竹林整備を行っている。事業の進捗状況の資料をも



らう。

雨降りのなか町を少し歩き、この辺りが中心の道路と聞くが、店もばらばら程度で何にもない感じを確認、裏路地何本かで飲み屋さん群を確認するも、昼間に人を滞留させる要素は少ない。

京都府漁業協同組合宮津支所に行く。ナマコについて聞く。ナマコは鋤のつかない桁網で採っている。あおとくろが加工へ、あかは食べる。浜値キロ800円程度。昔、料理としてナマコは鮮魚として三杯酢で、また醤油での炊き込みもあった。

宮津では漁師は20名、栗田では10名、年度初め3月に登録をする。やるかやらないかは別。行使料として3千から5万円（定置）、水揚げは全て漁連に卸す。

岩のりは間人漁港のそばの岩礁で、板のりにする。市場に出荷しているが地元消費で終わる程度。のりの養殖を始めている。兵庫の林崎漁協から習い、いかにで養殖。養殖としては岩ガキ、とり貝、あさり。数年前から漁礁を作って、移植放流という形で、江尻や阿蘇湾でやっている。とり貝は宮津湾では昔から多く採れ値段も安かった。栗田湾では少なかった。あさは文殊で、アマダイもとれる。

ナマコ漁師の代表格の方を漁協へ呼び出して頂きインタビューとなる。ナマコの水揚げは現在10から15トン程度。本人は水産試験所で26年勤務、平成22年にここに戻ってきて漁師を始めた。

中国での需要が大きくなった近年、ナマコが高価に売れるため、平成22年までは12月1日から4月初めまで、朝の7時から12時まで休みなく漁に出て、一斗缶17キロを4缶引くくらいまで取り、80歳代の名人で月に100万円稼ぐ人もいた。45トンくらいの水揚げがあった。しかし、その結果、ナマコの生息数を減らしているため、資源管理の観点から12月20日から4月上旬に漁を解禁、300グラム以下の小さなナマコは採らず、月曜日と金曜日には禁漁するという、また禁漁区も設けるという京都府下でもっとも厳しいルールをナマコ組合で作っている。

宮津湾で水揚げしたナマコをすべて漁協が買って売るので、水揚げする船ごとのナマコの質（大きさ）が配慮されず、重量を基準に一律の値段キロ800円で買われるという問題がある。選別作業に人手がいるためこのようなことになっているが、選別する方法はいくらでもあるし、また場所によって肉厚に大きな差があることからすれば、当然やるべきことではないかと思うそうである。

17時半の電車で峰山へ。プラザホテル吉翠苑泊。外で食べようと歩き回り、ろばた中原で晩御飯。お刺身とカレイのから揚げ、サザエのつぼ焼きなど。

## 9月6日（火）

京丹後商工会へ。8年前から滞在型観光を目指す。市と観光協会が主で、商工会は後方支援。体験プログラムを作る。現在130件ほどある。漁業や農業、モノづくりなどありのままの日常を見てもらい体験する。生活そのものを、例えば漁師町や鳴き砂の保護ほか。とにかく交流人口を増やすほかはない。

問題は海側と山側それぞれ3町の連携が悪い。丹後町・網野町・久美浜町は2季型観光、夏は海水浴、冬はカニ、峰山町・大宮町・弥栄町ではそれがない。

インバウンドは年2千人、外国人に対する大丈夫感が出てきた。外国語が出来なくても何とかなる。外国人がSNSで発信、日本人がそれを見て再評価してくれる。

縦貫道ができて2年で観光客は30%増、しかし宿泊数は少ない。天橋立から城崎に抜けてしまう。丹鉄と連携を図っていこうとしている。

体験型の結果として、地元の人びとの変化も起こってくる。自分の仕事なんてと卑下していた人々が、プライドを持つようになる。体験してもらおうとモノへの価値観が変わる。相互に変わってくる。地元の人をマイスターとして、それに会いたいという形の観光にしていきたい（京丹後竜宮プロジェクト、後述）。教育的な修学旅行も考えている。都会への大学進学者についても考え始めている。

機械工業は、日進と積進が主で、ハブコネクターの役割をしている。指導型の経営で引っ張っている。下請けがその指導で下請け以外でも受注ができるようになる。ちりめんで景気の良かった昭和45年には自動車の販売台数が日本一

だった。問題としては最終生産形がないことである。

歩いてすぐの京丹後市役所企画総務部へ行く。夢まち造り大学の活動データをもらう。これは過疎高齢化集落の支援活動から始まる。平成18年くらいから、国の支援でふるさと供養活動として開始されたものが、これに代わった。立命・龍谷・京大など。この趣旨が生きているため特定集落での援農や祭りの支援などの活動が主になっている。

昼ご飯を役所近くの喫茶店で。しばらく休憩。タクシーで峰山の丹後機械工業協同組合へ行く。専務理事の方にインタビュー。

峰山市役所で商工部長などをやっていた。定年後、理事長から誘われここで働くことになった。だから機械は専門ではない。ただ日進の先代社長からは可愛がられた。今の行政にはかなり不満がある。

ここでの機械産業は、古くは弥栄のたたらと言いたいが、織機の製造と戦時中、高槻から日本計算機の疎開がもとになっている。日本計算機は峰山鉄工所となりその後倒産するが、織機の日進がその一部を吸収し大きくなった。組合設立時は20、30社だった。現在は約200社。

全体としての発信力がない。最終製品を作っていないのが弱い。行政に支援してほしいが動きは鈍い。講演会を開いて高校生にも呼びかけている。北海道の赤平のロケットについては260人が来場。峯山高校の生徒は100人。近大マグロでは全高校へ呼びかけ、生徒は200人、大人100人だった。峰高1・2年、4大理系志望者に対してインターンシップも開催、半日ずつ2社を回ってもらっている。

大学生に帰ってきてほしいが難しい。ここ出身の女性が夫を連れて戻ってきた例もあるがこういうのは少ない。したがって無駄なので求人すらかけていない企業が大半である。

先端的な企業として、高級自転車作成のウエルドワン一台100万程度、ヒロセ工業はアルミ削り出しでブリーフケース、サミットで提供した。

専務理事さんの紹介で、丹後織物工業組合へ。車で連れて行ってくれた。

新しい取り組みについてインタビュー。戦後、西陣に対して先染めをやって

いる。白生地からの染をプリンターですることもやっているが、産地間競争は激しい。合成繊維での織もやり、150センチ幅（ダブル幅）もできるようにしている。ただ36インチ、44インチ（標準だと思ふ？）が一般なので、精錬工場の機械改良への投資が釣り合うかどうか難しい問題。

流通の問題では、商社をかませていたが、完成品の小売りを手掛ける。そこには洋装もあるが、問題は提携先のアパレルが潰れる。また産業資材としての売り込みも図っている。

先端的取り組み、丹後町の民谷螺鈿、網野の遊糸舎（藤布）、ポリエステル系で商社を通じ海外もあり。アメリカ・ニューヨークでシルク展示会を7回行ったが、定番の商品では中国にかなわなかった。ミラノの展示会でも注文はあるものの8時間操業では、納期がこなせない、また織幅に対応できないという問題がある。

グループ化と情報交換が個々の企業で必要であり、仕事をまわすことが前提になるが、その意識化は難しい。加悦の安田織物は考えている。ニット製品・クスカという手織りネクタイ。成人年齢の引き下げによる、振袖の販売はどうなるのか？この問題は大きい。

16時まで、疲れた。タクシーを呼んでもらい大宮駅へ。16：25丹後リレー号で福知山、乗り換えてきのさき20号で京都まで。

## 12月25日（日） 八巻、村山、田中、佐々木

京都駅に10時に集合、レンタカーで丹後に行く。二反田で昼食後、冬景色を眺めに、伊根町の舟屋の里公園、向井酒造、袖師の集落で岩ノリについて聞き取り、購入。夕日ヶ浦のお土産屋さんへ、カニを買う。プラザホテル吉翠苑泊。カニ尽くし料理を食べる。

## 12月26日（月）

丹後機械工業協同組合を訪れる。専務理事にインタビュー。一緒に昼食後、(株)積進へ行く。設立昭和40年、機械・ユニット装置製造、機械加工の会社で、入社1年目の女性の広報担当から会社の概要を聞く。ボーイングの部品を製造。

ヒロセ工業株式会社へ行く。設立昭和56年、精密部品加工、社長インタビューとなる。12年前から試作関係を手掛けるようになった。高付加価値のため。アルミの総削り出しが得意分野。毎年新卒採用をしたいが、この2年間はゼロである。(株)タンゴ技研へ行く。設立昭和34年、四輪、二輪、汎用エンジンの部品、ユニット装置、試作品の加工という金属加工メーカーである。社長インタビューと工場見学を行った。

プラザホテル吉翠苑泊、たつやで晩御飯。

## 12月27日（火）

ウエルドワンという設立平成22年の小さな会社を訪問する。チタン製オリジナルブランド自転車を製造、社長50歳へのインタビューとなる。若い時からモノ作りが好きで、チタン溶接が得意でこの分野で起業したという。自転車やオートバイの部品を作成、自転車は国内海外の見本市に出品している。白石バイオマスで作ってもらったコーヒーのバイオポリマーの試作品を見せてもらう。奥さんの実家が藤布作成の工房であり、すぐ近くなので見学しにいった。

街道沿いをしばらくうろうろして食堂を探す。昼ご飯を食べてから、先に帰る村山さんを駅前で送り、その後、民谷螺鈿へ電話でアポイントを取り向かう。インタビューと作品を見せてもらう。

民谷螺鈿、着物、帯、ショール、バッグ、名刺入れなどを作っている。引箔の高い技術を有し、父親が完成させた螺鈿織りを武器に、海外の有名ブランドとも関係を持っている。パリのプルミエールビジョンに招聘され、毎年出品を続けている。

お土産を買い、京都縦貫道を通り京都駅へ戻る。

## 2017年

### 3月26日（日） 八巻、佐々木、芹沢

京都駅10時集合、レンタカーで丹後へ。宮津駅前の駐車場に停めて、富田屋で昼食。栗田半島の関西電力の水族館、魚っち館を見学、伊根の舟屋の里公園へ。伊根町観光協会の方と立ち話程度であるが意見交換。伊根町民にとってさ

ほど観光は重要性を持たない等々。イネカフェなどの新しい観光施設を見学、向井酒造で利き酒。

天橋立の傘松公園側の山内物産へ。社長夫人からオリジナルなお土産品製作（きんつば、シルク製品）について聞く。オーベルジュ橋立泊。

### 3月27日（月）

宮津市江尻・後藤商店を訪ねる。義父の方はおられたが本人は不在、電話で呼び出してもらいインタビューをする。ナマコの事業の状況を聞く。干したナマコを見せてもらう。

半島を半周、あちこちを見学。オーベルジュ橋立泊。夕刻、前回知り合ったナマコ漁師さんと丹後ホテルで会食。いろいろと浜の事情を教えてもらう。

### 3月28日（火）

朝ご飯後、芹澤さんは帰る。宮津駅で佐々木の大学院生をピックアップ、昼食は宮津でイワシ寿司、丹後機械工業協同組合へ行き専務理事の案内で、積進とヒロセ工業の工場見学をする。栗田半島の橋立宮津ロイヤルホテルへ行きお茶、天橋立を見学、笠松公園下のスーパーで買い物、京都縦貫道の駅丹波味夢の里で晩御飯、京都に戻る。

今回の調査は、年度末のしめとして地域の振興に関心を持つ方々との関係の強化が中心となった。その中で強く印象に残ったのが、農協問題と同様なことが漁協関係でも起きていることであった。生産者から消費者までの流通過程の問題・協同組合自体の仕組み・生産現場の老齢化・一次産業への一種の偏見、いずれもが近代化のなかで構築されてきたそれであり、大きく時代背景や技術などの変化があったにもかかわらず、それを有効に活用できないシステムとなっていることが、地域振興にとってやはり最大の問題であることを再確認することになった。

他方、機械金属工業などでは先端的な取り組みをし、これから業績をさらに伸ばしていける会社もあるが、それは経営者のマインドというところに強くかかわっており、地域全体でそういった志向をどう育てていけるか、丹後だけの問題ではないその解決策が求められているといえよう。また従業員と経営者が

同じ方向を見ることの重要性も感じた。

本研究ではもう一つ焦点化したいのが、フィールドワーク自体で培われるコミュニケーションスキルの要素である。そのスキルとは「新たなダイアログの場」を生成する力ではないかと思うが、それは社会構成主義の、言語とコミュニケーションが社会的現実を構成する基本要素と見なす考え方へとつながるもので、ダイアログの場の適切な生成こそが、様々なモノを解決し、イノベーションへと向かうのではないだろうか。

フィールドでどのようにダイアログの場を作っているか、この丹後の調査を利用し、調査の聞き取り現場でいかにダイアログの場が生成され、インフォーマントとの良好な関係が生み出されるか、我々が相互をまたゼミの学生を観察することを通じて、この点を解き明かせればと思う。このため2017、18年度佐々木ゼミの学生に被験者として丹後に同行してもらった。なお、実際、主に佐々木が聞き役となることが多いこれまでの調査で、共同研究者からダイアログの場が簡単に生成されることを何度も告げられている。そのインフォーマントの方々とは、2度目にお会いした時は友人のような関係に至っている。

### 8月8日（火） 佐々木、3年ゼミ学生延べ10名

京都駅からはしだて3号で橋立駅へ。お蕎麦屋さんで昼食。レンタサイクルを借りて天橋立に行く。傘松公園側から天橋立を見学、松井物産で社長夫人からおみやげについてレクチャーを受ける。ここで売られている土産物のほとんどは3軒の大きな問屋から仕入れている話などを聞く。橋立ベイホテル泊、居酒屋で晩御飯を食べる。

### 8月9日（水）

バスで宮津市内へ。三上家住宅を見学。宮津駅で他のゼミ学生と合流。レンタカーを借りて二反田で昼食。舟屋の里公園から伊根舟屋見学、伊根観光協会の方から伊根についてのレクチャーを受ける。舟屋が可能な理由は伊根湾が南向きで湾口に青島があること、干満差が50cm程度によるためという。また舟屋

自体や過去のクジラ漁などについても聞く。橋立ベイホテル泊、ホテルでバーベキュー。

#### 8月10日（木）

ちりめん街道・尾藤家見学、橋立駅へ帰る学生を送る。他の学生が合流。伊根町へ、イネカフェで昼食、向井酒造、経ヶ岬、道の駅てんきてんき見学、橋立ベイホテル泊、丹後ホテルの居酒屋で宮津のナマコ漁師さんとの懇談会を夜行う。

#### 8月11日（金）

金引きの滝、橋立ビューランド（昼食）、籠神社、眞名井神社、経ヶ岬、小天橋海水浴場見学、宮津駅から帰京。

今回の調査は、ゼミ学生の若い感性で丹後地域をどのように感じるかを知ることが目的とするものであった。そのため、主にさまざまな観光スポットを巡り、またそのステークホルダーとなっている方々と懇談してもらった。

#### 9月7日（木） 佐々木

京都駅からはしだて3号で峰山へ。丹後機械工業協同組合へ。専務理事ともうひと方の案内で榊尾崎鐵工へ行く。設立昭和40年、鉄・ステンレスの熱間鍛造が主な仕事である。社長インタビュー、工場見学をする。藤原製作所へ行く。設立昭和61年、精密機械部品加工が専門、社長インタビュー、工場見学。京都銀行峰山支店で支店長から支店で地域の関連した業務についてインタビュー、先端的な取り組みはさほど多くないようである。プラザホテル吉翠苑泊、峰山駅近くの居酒屋でお二方と懇談。

#### 9月8日（金）

丹後機械工業協同組合専務理事の案内で、網野の京丹后市商工部へ。商工部課長ほかの方々と地域の見せ方についての取り組みを聞く。丹後地域地場産業振興センター（アミティ丹後）へ。理事長からここでの仕事についてインタビュー。丹後グッドグッズの選定について聞く。北都信用金庫網野支店へ行き店長にインタビュー。宮津本店の地域創生事業部部長に会うことを勧められる。



鳥松でバラ寿司の昼食、大宮駅まで送ってもらい帰京。

京丹後市には機械金属系のモノづくり会社がおおよそ200社ほどあり、京都北部地域のきわめて有力な産業になっている。しかしながらこの事実は、関係者以外地元においてもあまり知られていない。これはどの社もB to Bの事業がおもで、最終製品を作っていないことが遠因と考えられるが、それにより地元での認知度は低く、この産業を目指そうという若者は少ない。

昨年度からこの問題解決について、丹後機械工業協同組合の理事さんたちと意見を交換してきたが、今回の調査はその継続である。まず再度の意見の交換から始め、実際の事業現場の観察と経営者との意見交換、行政によるこの産業のアナウンスメントに関する取組について、さらに金融機関による支援ないしマッチアップや起業へのコンサルティングのありかたの現状についての聞き取りを行った。

その結果として、地域振興においては、地域の信用金庫が、そのオペレーション調整の指揮を執るべき立場にあると確信するに至ったが、ただ信金自体にその能力が不足していることや、金融のノルマ達成が行員に課せられた義務で、そこから抜け出せない現状が良く理解できた。

## 2018年

3月28日（水） 佐々木、中村

10時に京都駅からレンタカーで宮津へ。北都信用金庫宮津本店地域創生事業部で部長・次長へ地域振興の取り組みについてインタビュー。信用金庫は地域商社として今後、捉えていく必要がある。また人材育成として、起業のために5年から10年は信用金庫で勉強をし、起業したければしたらよいし、戻ってもよく、信用金庫がインキュベーション機能を備えられればという話には、大いに期待させられる未来を垣間見た思いがあった。ただ後者は現段階では賛同は得られていないそうである。舟屋の里公園、経ヶ岬を經由し峰山へ。プラザホテル吉翠苑泊、夜にホテルのレストランで丹後機械工業協同組合専務理事と会食。

3月29日（木）

上記専務理事の案内で㈱タンゴ技研へ。社長インタビューと工場見学。峰山駅前で昼食後、㈱日進製作所本社工場へ。設立昭和21年。総務課課長から話を聞く。ホンダや日産など自動車部品製造が主な仕事である。中国、ベトナム、タイ、メキシコなどに海外工場がある。

日進はこの地域の草分け的な存在で、創業者は島根の出身であり、茨木から戦前に疎開してきた日本計算機がもともとの母体である。創業者の強い想いが地域をまとめていた側面があり、その薫陶や支援を受けて起業した者は多いという。

㈱大宮日進へ行く。日進の子会社で社長はタンゴ技研社長が兼務している。社長・製造部長から業務内容を聞く。鉄、ステンレスの精密鍛造が主な仕事で、その金型製作から手掛けている。工場を見学、年250万個の鍛造を行う。従業員は120名ほどで3交代制。本来は地域住民への負担を減らすためにも2交代制を目指している。この後帰京。

8月5日（日） 佐々木、3年ゼミ学生9名

京都駅集合、はしだて3号で橋立駅へ。知恩寺門前のレストランで昼ごはん、天橋立見学（天橋立ビューランド）。14時半マイクロバス待ち合わせ、伊根舟屋の里公園、舟屋・向井酒造他見学。16時半、傘松公園ケーブル下の松井物産で社長から橋立観光の現状についてインタビュー。学生がお土産品について意見の交換を行う。橋立バイホテル泊。居酒屋で夕食。

8月6日（月）

マイクロバスで北都信用金庫宮津本店へ。地域創生事業部部長から信金についてレクチャーを受ける。丹後ワイナリーで昼ごはんと見学、浦島神社見学、経ヶ岬経由、袖師の棚田見学、道の駅てんきてんき丹後、道の駅丹後王国見学、社長への短いインタビュー。パソナが出資。コンセプトは地元の食材を使う道の駅。働く場を作る。地域商社となって売り込み。ホテルを持つ体験型施設。年間入場者数50万人。プラザホテル吉翠苑泊、居酒屋で夕食。丹後機械工業協

同組合専務理事が同席し、意見交換を行う。

### 8月7日（火）

タンゴ技研会社説明と見学、女性従業員への学生からのインタビューを実施。スーパーマーケットでお昼ごはん、加悦町尾藤家住宅、ちりめん工場を見学。近くの道の駅シルクのまちかやへ。宮津で有名なアイスクリーム屋へ。16時半天橋立駅着、丹後リレー6号、福知山乗り換え、きのさき20号で帰京。

今回の調査は、地域金融ネットワークが果たす役割と、その実践のために必要な教育について意見の交換並びに、現在、極めて旬な状況にあるパソナ系列の道の駅「丹後王国」の実情を見学し、その実際について聞き取りを行うことが目的であった。丹後王国では社長と面談ができた。また、この調査に学生を同行し、丹後の主要産業である観光と機械金属工業、地域の重要なステークホルダーである北都信用金庫という現場を観察させ、学生目線でそれをどのように受け取るか、これ自体を知ることにも目的であった。特にタンゴ技研という学生にとって未知の世界であるモノづくりの現場、そこでの女性の労働についてどのような関心をしめすかに大いに興味があった。

### 9月7日（金） 八巻、佐々木

京都駅ではしだて5号12時20分、お土産を買って乗る。宮津駅14時21分着。宮津市役所観光定住課課長と意見交換を行う。観光客の入れ込み人数の資料をもらう。16時13分の列車で網野へ。とと屋の人が出迎え。とと屋泊。夕食後、女将他と歓談。22時過ぎ八巻さん到着。

### 9月8日（土）

10時から女将さんから話を聞く。旅館を始めるようになった来歴、さまざまな体験型観光をまとめた京丹後竜宮プロジェクトのこれまでの経緯と現状、間人の状況とカニについてなど。「地域商社」という考え方で運営している。このため旅行業資格も取っている。一般社団法人にするそうである（9/13）。ブルー丹後で一緒にお昼ご飯。

道の駅丹後王国へ。誘客推進部長ともう一方から話を聞く。パソナグループ

による地域活性化事業、農業分野での雇用創造。誘客推進部の仕事は団体営業、エイジェントは大手ならJTB、日本旅行、全国旅行業組合、京都旅行業組合、中小のエイジェントも多い。年1、2回の商談会を開いてもらって、または直接訪問してPR、コースに入れてもらう。広報・広告業務、イベント開催は年130回程度。以前は有料で一日2、3人のときすらあった。パソナの運営になってから園内全部が道の駅で、エイジェント営業は前もあったが、近隣の人から聞くところによるとイベントが増えた。トヨタのGAZOOレーシング（トヨタの客向けに）イベント、短距離走るトライアル、3900人の来場があった。9月23、24日は第3回道ワングランプリ開催、道の駅のグルメを競い合う、全国20の道の駅が集まってスイーツ部門とフード部門、2日で15000人の客が来た。平日の入園者数は8月までは多い。1週間平均して1000人／1日くらい（オフシーズン）、年間50万弱人、リニューアルした当初は目標年間20万人だったので初年度から大幅に成功だという。園内には6軒のレストランやソーセージやクラフトビールの工房などがあり、地元の人の働く場所となっている。部長に園内を30分ほど案内してもらう。

ホテル吉翠苑泊。たつやで丹後機械工業協同組合専務理事と懇談する。

9月9日（日）

10時に金刀比羅神社へ行く。第3回こまねこ祭りが開催されている。ただ大雨警報が出ているので屋台の出店は取り止めになったそうである。この実行委員長の吉翠苑の女将さんと宮司さんから社務所で、平成22年から始まった「ねこプロジェクト」、末社の木島社に蚕をネズミの害から守るために狛犬ではなく狛猫が安置されており、これをもとに町興しを試みるもので、本通りが活性化されつつあるなどの話を聞く。ホテルに戻り八巻さんに宮津駅まで送ってもらう。12時27分の普通列車で福知山へ。きのさき16号が大幅遅れで帰京。

インタビューを通じて、現地の人々が地域振興へ主体的な意識をもって取り組めるか、まずはこれが重要で、それなしには困難であることが明らかになるとともに、活動の輪を広げていく難しさを教えられた。ただ、女性が中心となる取り組みの可能性の大きさにも気づかされた調査である。

## おわりに

このプロジェクトは現在も継続中で、2月にも丹後行きを予定している。これまでの調査で、丹後という地域をある程度俯瞰できるようにはなっており、それゆえ地域のステークホルダーの方々との意見交換を行うようになっていく。ただ、農林業関連についてや、商業、交通という分野は全く未調査であり、また数字的把握についても不十分で、地域の包括には程遠いのが現状である。したがって調査を続けていかなければならないが、どこかで特定の分野を集中的に掘り下げ、そこにおいてコンサルティングを実践的に試みる必要があると感じている。その段階がいつになるかはまだ分からないものの、数年以内には可能となるのではと想定している。

最後になったが、本調査にご協力を頂いた多くの方々、とりわけ丹後機械工業協同組合専務理事、ナマコ漁師のHさん、松井物産、北都信金、タンゴ技研の方々には、心からの感謝を申し上げたい。

